

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティの(S奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壘 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているため、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I A			17642	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
籾内 順子	選択	2	看護師、看護教員			

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

命の誕生から身体発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。さらに子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
3. こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
4. 子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
5. 子どもの発育・発達②身体発育
6. 子どもの発育・発達③生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達④生理機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
11. 子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
12. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
14. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
15. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
まとめ
終講試験

授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションやグループワークや発表も取り入れる。視聴覚教材等も使用する。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

欠席は減点対象とする。1回欠席につき2点減点とする。

テキスト

子どもの保健 I 佐藤益子編著ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計編

留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加点0点。グループワークや発表への取り組み姿勢も評価対象とする。欠席は1回につき2点減点とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藪内 順子	選択	1	看護師、看護教員			

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E I パーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごすための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をととして実践力を身につける。

授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実践。成長・発達の観察と測定
3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
7. 子どもの疾病と適切な対応②個別の配慮を必要とする子どもへの対応
8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
まとめ
終講試験

授業の方法

講義および演習と実習。視聴覚教材、グループワークも取り入れる。グループでのポスター作製およびポスター発表も行う。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%
平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型、レポート等の提出期限を守らないの場合等は減点対象とする。
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止および忌引きなどの公欠となった場合は認める。欠席した場合、1回につき2点減点とする。

テキスト

①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布
②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

参考図書

授業時に適時紹介する。

留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）
予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。この講習は講義2回分とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの発育・成長に伴う食と栄養の基本を理解し、自ら考え、現場で対応できる力をつける。子どもの食生活がその後の人生の基盤となり身体が育成されることを学び、適切な食生活の在り方を指導できる力をつける。保育者は、子どもに最も近い距離にあり、多くを伝え、学ぶ機会を与えることの出来る立場となる。特に学ぶべきことは、栄養・食生活・身体発育の知識はもちろんであるが、その知識を思いやりを持って現場で伝える実践力を養うことにある。このクラスではKAISEIパーソナリティーのK(思いやり)、A(自律)、S(奉仕)を養う。

授業の概要

乳幼児期は、食生活の基礎が形作られる時期であり、子どもが健康な体を育成するためには食生活の正しい習慣付けは重要である。また、小児期の栄養は、保育者に委ねられることから、保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の仕組みおよび発達などを理解する必要がある。子どもの段階的な発育・発達を的確に捉え、その時期に必要な食生活と栄養について、現場で指導出来るように、多角的な栄養・健康の知識のみならず、自ら考える力や、実行する力も養うための発表形式の演習も取り入れる。食育基本法や児童福祉施設における食生活の現状や課題、及び特別な配慮を要する子どもの食生活と栄養について理解し対応出来る知識および方法を学ぶ。

授業計画

1. 保育における子どもの食と栄養
2. 子どもの心身の健康と食生活
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4. 食事の摂取基準と献立作成・調理の基本
5. 胎児期、乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6. 幼児期の心身の発達と食生活
7. 学童期、思春期の心身の発達と食生活
8. 幼児施設における食育
9. 食育の内容と計画および評価
10. 食を通じた地域の関係機関や職員間の連携
11. 食生活指導および食を通じた保護者への支援
12. 家庭における食と栄養
13. 児童福祉施設における食と栄養

14. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15. 子どもの食生活の現状と課題

授業の方法

講義および実践演習により行う。担当者による発表形式も取り入れる。

準備学修

Webで詳細を参照すること。
出された課題に前向きに取り組むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

子どもの食と栄養 岡井紀代香 吉井美奈子 編 ミネルヴァ書房

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小中学校教員			

授業の到達目標

生徒指導の意義や原理を学ぶとともに学校現場における生徒指導体制や課題を理解し、自己実現を目指す進路指導のあり方を習得し、教員として必要な資質・能力を高め、実践的な指導力を身に付ける。このクラスでは、KAISE I パーソナリティーのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき生徒の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と目的
2. 教育課程と生徒指導
3. 学校組織としての生徒指導
4. 進路指導・キャリア教育と生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめと定期テスト

授業の方法

講義とディスカッション

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点30% 定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I B			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
籾内 順子	選択	2	看護師、看護教員			

授業の到達目標

「子どもの保健 I A」の子どもの心身の発育・発達について学習したことを踏まえて、保育者に必要とされる子どもの保健分野をより深めるために、子どもの疾病とその予防方法および適切な対応、保育における環境および衛生管理並びに安全管理について理解する。また施設における子どもの心身の健康および安全の実施体制についても理解する。このクラスではKAISE パーソナリティーのK(思いやり)を考える。

授業の概要

子どもはさまざまな面で未熟で、事故発生の危険性や感染症に罹ることが多い。日々子どもの心身の健康を守り、健康増進に努め順調な発育・発達を促すことは、保育する上で最も基本的な要件である。「子どもの保健 I A」で学んだ基本的な知識を理解したうえで、子どもの感染症や病気について学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政の関わりや法制度の現状について学ぶ。保育者自身の心身の健康管理についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの病気と保育①子どもの病気の特徴
2. 子どもの病気と保育②子どもの健康状態の把握
3. 子どもの病気と保育③主な症状の見方と対応
4. 子どもの病気と保育④子どもの病気の予防と対応
5. 子どもの病気と保育⑤子どもによくみられる疾患(イ.感染症)
6. 子どもの病気と保育⑥子どもによくみられる疾患(ロ.感染症)
7. 子どもの病気と保育⑦子どもによくみられる疾患(ハ.感染症以外の疾患)
8. 子どもの病気と保育⑧子どもによくみられる疾患(ニ.感染症以外の疾患)
9. 子どもの病気と保育⑨障害のある子どもたち
10. 子どもの病気と保育⑩発達障害への理解と対応
11. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
12. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
13. 健康および安全の実施体制保育現場における事故防止および安全対策並びに危機管理
14. 保育所と家庭の連携

15. 母と子どもの保健

まとめ

終講試験

授業の方法

主に講義形式で進める。グループワークや発表も取り入れる。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心を持つ。子どもに関する情報や感染症の流行などについて、新聞や報道など身近なこととして捉える。

事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%
レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。30%、定期試験70%

欠席について

欠席は減点対象とする。1回の欠席で2点減点とする。

テキスト

①子どもの保健 I 佐藤益子編著 ななみ書房 必要時プリント配布

②子どもの保健 II 佐藤益子編著 ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計協会編 授業時に適時紹介する。

留意事項

受講条件として「子どもの保健 I A」を履修した者。

グループワークや発表も評価の対象とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp